

熱中症最多発生、真夏日記録更新等、異常な暑さから解放され、やっと秋の気配が感じられるこの頃です。発汗という自然な解毒機能が減じてくる分、体調を崩す方が多いのもこの季節です。塩分摂取量を減らし、運動や入浴によるデトックスを心がけるようにしましょう。

さてここ数ヶ月、福島原発からの大量、高濃度汚染水漏れが明らかになり、原発事故は、しだいに、その深刻さを露呈してきています。七月上旬から、漏れ始めていたという汚染水は、1日に300トンもあり、汚染レベルは、8000万ベクレル/l、何と24兆ベクレル/日もの海への汚染が続いているのだという。震源地点より100km沖の日本海溝の7000mをこえる海底の砂にも、0.02ベクレル/g(20ベクレル/kg)の汚染が見つかっています。昨年の秋に、3万ベクレル/kgのアイナメが見つかり、一面トップ記事で報道され、ご記憶の方も多いと思いますが、今年3月11日、福島の港で、74万ベクレル/kgのアイナメが見つかったという、とても小さな記事が、一社から出ました。魚介類の汚染は、確実に広がり、深刻化しています。

放射性セシウムのアレルギーは、これまで何回か書きましたが、通常の医学的検査では調べることができず、チェルノブイリ、広島、長崎の被害でも、アレルギーを起こすという記録はありません。これまでの経験で、食物や環境のアレルギー診断に対して有効であったOーリングテストという確認済みの方法を用いて調べているのです。その中で明らかになったことは、放射性セシウムはアレルギーを起こすこと、またアレルギーを起こしていても、食品の除染(基本は、塩でゆがくこと)をすれば、約1カ月程で症状が消えていき、過敏反応も低下していくということです。もちろん、高濃度汚染のものは、塩でゆがいても無理ですが。

他のアレルギーと同じように、体質によっては、300ベクレルでも平気な人もあれば、1~2ベクレルでも症状が出てしまう過敏な人もいるのです。この夏は、暑さのため、汗とともに放射性セシウムを排泄する人が多く、アセモがひどい、痒がる、治っても黒ずむ、皮膚が老化したようになるという現象が特徴的でした。また一度除染して良くなっても、強く汚染されたものを続けて摂ると再発します。再発の原因を探っていくと、魚料理が多いのです。陸のものは、時間の経過と共に、特殊な場合を除いて、放射性セシウムは減衰しています。Oーリングテストのサンプルとして使用している静岡の同じ農園の無農薬茶は、2011年321ベクレル/kg、2012年31ベクレル/kg、2013年今年11ベクレル/kgでした。しかし海の汚染はしだいに深刻さを増しています。Oーリングテストでは、高知の塩も、沖縄の塩も、日本海の塩も汚染されています。ドイツの岩塩もチェルノブイリにより汚染されていました。気仙沼の漁船が、尖閣諸島沖を漂流し、2年半ぶりに、福井県で陸揚げされたというニュースがありました。このように海流は単純ではなく、沖縄の塩まで汚染されるのも当然ともいえます。除染のための塩が汚染されていると、効果が出にくいので、安全な塩を使用しなくてはなりません。今のところ、アンデスの岩塩は大丈夫のようです。心配な方は、塩をチェックします。

日本だけでなく世界の海を汚染し続けているこの現状を、何としても止めなければなりません。政府、専門家、当事者はありとあらゆる知恵を集めて、最優先で総力を挙げて取り組んでいかねばなりません。このような状況で、原発の輸出、再稼働などんでもないことです。原発事故による健康被害は、主として食物からの内部被曝によるもので、長期にわたることが予測されます。その被害を軽減させ、健康に暮らしていくことができるようにしていきたいと思ひます